

# 小学校家庭科における学習効果に関する一考察

## On the Educational Effect of Home-Making in Elementary School

(1988年4月7日受理)

大橋 登史子

Toshiko Ohashi

**Key words:** 小学生の日常生活の実態, 家庭科実習における学習効果,  
家庭科の教師像

### はじめに

家庭科教育は、小学校、中学校、高等学校を通じて実践的・体験的な学習を行い、その効果が生活現象における、個々の生徒のもつ問題解決の中に還元されてはじめて、本来の特異性が生きてくるものであろうと思われる。今回は中学校及び高等学校において、家庭科の学習が生徒にとってどのようなものであり、またどのような成果をおさめているかについて検討した。

そこで今回は、小学校の生徒を対象に家庭科学習に対する意識が、中学校、高等学校の生徒の場合とどのように異なり、また変化しているかについて知ろうとするものである。

### 研究方法

1. 調査方法は、質問紙法で、倉敷市内の小学校2校、300名を対象に配布した。回収率は235名(78.3%)であった。対象の小学校は、前回調査を行った中学校及び高等学校と同一学区である(A表)。なお調査者の家庭状況については、生徒に関係のあるものを示した。(B表)

2. 調査年月日 昭和63年1月～2月

3. 調査内容

- 1) 小学生の日常生活の実態
- 2) 小学生の家庭科学習に対する興味・関心
- 3) 小学生の家庭での手伝いの状況
- 4) 家庭科実習における学習効果
- 5) 小学生の望む家庭科の教師像
- 6) 小学生の家庭科学習に対する評価
- 7) 小学生の男女共学における生徒の望む学習内容

表A 調査対象

		実数	
		調査人数	計
小学校(A)	男	54	119
	女	65	
小学校(B)	男	61	116
	女	55	
男	計		115
女	計		120
全体計			235

表B 両親の職業

実数(%)

両親	職業	教員	公務員	会社員	農業, 林業, 漁業	商業	内職	家事	母がいない	無回答
父		3(1.3)	13(5.5)	188(80.0)	3(1.3)	13(5.5)	4(1.7)	0	7(3.0)	4(1.7)
母		2(0.9)	13(5.5)	65(27.7)	1(0.4)	11(4.7)	46(19.6)	90(38.3)	2(0.9)	5(2.1)

## 研究結果および考察

## 1. 小学生の日常生活の実態

小学生の1日の生活の実態を知るために起床時刻、食事及び間食の状態、勉強・テレビ、小遣い等についてみることにする。

## 1) 小学生の起床時刻

小学生の起床時刻について見ると、6時以前に起きるのは男子の方が(6.1%)で女子(0.8%)よりいくらか多いが、全体としてこの時刻に起きるものは少ない。男子、女子とも約半数以上のものが7時ごろ(54.5%)起きている。前回の中学生の場合にも7時ごろ起きるのが(47.4%)で約半数を占めていた。(表1-1)

表1-1 小学生の起床時刻

対象		項目	実数(%)					計	
			6時より前	6時半ごろ	7時ごろ	7時半ごろ	8時以降		無回答
小学生	男子		7(6.1)	36(31.3)	59(51.3)	12(10.4)	0	1(0.9)	115
	女子		1(0.8)	45(37.5)	69(57.5)	5(4.2)	0	0	120
	全体		8(3.4)	81(34.5)	128(54.5)	17(7.2)	0	1(0.4)	235
中学生	全体		52(5.9)	238(27.2)	415(47.4)	164(18.7)	3(0.3)	4(0.5)	876

男子・女子\* 小学生・中学生\*\*

## 2) 起床時の状態

小学生の起床時の状態については、「自分で起きる」という自主的な者は、男子(39.1%)、女子(35.0%)で男子の方がいくらか多くなっている。「一度起してもらえば起きられる」とする者は、女子は(35.0%)、男子は(27.8%)で大体30%前後のものが、起してもらえば一度で起きている。また「目覚し時計にたよる」とするものも男子(19.1%)、女子(20.8%)となっていて、約(50%)前後の者が自分では起きられないが、何らかの方法で起こされれば起きている。しかし「何度でも起してもらおう」という者が男子(11.3%)、女子(8.3%)おり、また「目覚し時計でも起きられない」という者も(1.3%)で数は少ないがいる。この傾向は、中学生の場合にも同じであった。(表1-2)

表1-2 起床時の状態

対象		項目	実数(%)					計	
			自分で起きる	一度起してもらえば起きる	何度でも起してもらおう	目さまし時計にたよる	目さまし時計でも起きられない		無回答
小学生	男子		45(39.1)	32(27.8)	13(11.3)	22(19.1)	2(1.7)	1(0.9)	115
	女子		42(35.0)	42(35.0)	10(8.3)	25(20.8)	1(0.8)	0	120
	全体		87(37.0)	74(31.5)	23(9.8)	47(20.0)	3(1.3)	1(0.4)	235
中学生	全体		225(25.7)	272(31.1)	124(14.2)	222(25.3)	31(3.5)	2(0.2)	876

小学生・中学生\*\*

### 3) 朝食の摂取状態

小学生の食事の摂取状態については、「毎日食べる」は男子（84.7%）、女子（85.3%）になっており大多数の者は食事をしている。「時々食べない」とする者が、男子では夏が（13.9%）、女子は（12.5%）となっている。冬の「ときどき食べない」というのは男子（11.5%）、女子（12.5%）で、冬より夏の方が「ときどき食べない」者が男子ではいくらか多いが、女子の場合は夏も冬も変わらない。これを中学生の場合と比べると中学生も「毎日食べる」者は（86.5%）で同じくらいである。「時々食べない」では（8.6%）で小学生より少なくなっている。（表1-3）

表1-3 朝食の摂取状態

対象 \ 項目			実数(%)					
			毎日食べる	ときどき食べない	時間がないのでほとんど食べない	食べたくない	無回答	計
小学生	男	夏	98(85.2)	16(13.9)	1(0.9)	0	0	115
		冬	100(87.0)	13(11.5)	2(1.7)	0	0	
	女	夏	101(84.2)	15(12.5)	2(1.7)	2(1.7)	0	120
冬		101(84.2)	15(12.5)	2(1.7)	2(1.7)	0		
小学生	全体	夏	199(84.7)	31(13.2)	3(1.3)	2(0.9)	0	235
		冬	201(85.5)	28(11.9)	4(1.7)	2(0.9)	0	
中学生	全体		758(86.5)	76(8.6)	19(2.2)	21(2.5)	2(0.2)	876

小学生・中学生\*

### 4) 朝食の味覚

朝食は「おいしい」ですかに対して、男子は（93.9%）、女子は（92.5%）でほぼ同じ割合で男女とも朝食はおいしく摂取している。これとは逆に「おいしくない」とするものは僅か6%で、一般的には母親が朝食をおいしく食べられるように配慮していることがうかがえる。（表1-4）

表1-4 朝食の味覚

対象 \ 項目		実数(%)			
		おいしい	おいしくない	無回答	計
小学生	男子	108(93.9)	6(5.2)	1(0.9)	115
	女子	111(92.5)	8(6.7)	1(0.8)	120
	全体	219(93.2)	14(6.0)	2(0.9)	235

### 5) 間食

小学生の間食は、学校から帰宅し、夕食までの間に間食をどのように摂っているかをみると、「家族が買って用意してあるものを食べる」は男子（44.3%）、女子は（45.0%）が一番多く、つぎに「家にあるもの」は男子（31.3%）、女子（32.5%）になっている。また「家のだれかがつくったもの」男子（8.7%）、女子（13.3%）で「家族が買って用意してあるもの」あるいは「家にあるもの」とするのは、男子で（75.6%）、女子で（77.5%）の者は、市販のしかも家の誰かが求めたものを食べている。「自分で好きなものを買って食べる」者は（7.2%）で少ないが、子ども達の好きなものは家族によって一応用意されているとみてよい。このことは中学生についても同じ傾向があるが、「自分の好きなものを買って食べる」では（13.1%）で小学生よりは多くなっている。（表1-5）

表 1-5 間食の種類

対象		項目	実数(%)					無回答	計
			家のだれかがつくったもの	家にあるもの	家族が買って用意してあるもの	自分で好きなものを買う	食べない		
小学生	男		10(8.7)	36(31.3)	51(44.3)	12(10.4)	6(5.2)	0	115
	女		16(13.3)	39(32.5)	54(45.0)	5(4.2)	6(5.0)	0	120
	全体		26(11.1)	75(31.9)	105(44.7)	17(7.2)	12(5.1)	0	235
中学生	全体		340(38.8)	346(39.5)	115(13.1)	55(6.3)	20(2.3)	876	

小学生・中学生\*\*\*

## 6) テレビ視聴

小学校から帰宅後のすごし方で、テレビを見る時間が「1時間～2時間」の者が多く全体平均(44.7%)で男子より女子の方が多い。「2時間以上」見る者は全体平均(38.7%)で女子より男子の方が多い。「1時間以下」の者は(15.7%)で男子より女子が多い。中学生では「1時間～2時間」見る者が(67.6%)でもっとも多く、つぎに「2時間以上」見る者は(17.5%)で少なく、つぎに「1時間以下」の者は(14.1%)で少なくなっている。(表1-6)

表 1-6 テレビ視聴

対象		項目	実数(%)				計
			1時間以下	1～2時間	2時間以上	無回答	
小学生	男		13(11.3)	48(41.7)	53(46.1)	1(0.9)	115
	女		24(20.0)	57(47.5)	38(31.7)	1(0.8)	120
	全体		37(15.7)	105(44.7)	91(38.7)	2(0.9)	235
中学生	全体		124(14.1)	592(67.6)	153(17.5)	7(0.8)	876

男子・女子\* 小学生・中学生\*\*\*

## 7) 勉強時間

小学生が学校から帰ってどの位、机に向かって学習しているかについて見ると、「1時間～2時間」勉強する者が、男子(56.5%)、女子は(69.2%)で、男子より女子の方が多い。「1時間以下」の者は、男子(37.4%)、女子は(23.3%)で男子の方が女子より多い。「2時間以上」勉強するものは全体平均(6.4%)で少なくなっている。これらの勉強傾向をテレビ視聴と比較して見ると「1時間～2時間」では男女とも勉強時間の方が多いが、「2時間以上」になるとテレビを見る方が勉強する時間よりはるかに多くなっている。中学生では「1時間～2時間」は(56.6%)で小学生より少く

表 1-7 勉強時間

対象		項目	実数(%)				計
			1時間以下	1～2時間	2時間以上	無回答	
小学生	男		43(37.4)	65(56.5)	7(6.1)	0	115
	女		28(23.3)	83(69.2)	8(6.7)	8(0.8)	120
	全体		71(30.2)	148(63.0)	15(6.4)	1(0.4)	235
中学生	全体		245(28.0)	496(56.6)	126(14.4)	9(1.0)	876

小学生・中学生\*\*

なっている。(表1-7)

8) 1ヶ月のお小遣い

小学生のお小遣いでは、「1,000円以下」というのが男子(72.2%)、女子は(64.2%)で女子より男子が多くなっている。つぎは「1,001円～3,000円」が男子(15.7%)、女子は(19.2%)で女子が多くなっている。お小遣いは「もらわない」とする者が男子(11.3%)、女子は(15.0%)で女子の方が多くなっている。このことは必要なものの購入に際しては、親から入用な額をもらっていて、自分で自由に小遣いを好きな時に使っていないことになる。中学生は「1,001円～3,000円」が(59.0%)で一番多く、「1,000円以下」が(28.9%)になっている。「もらわない」という者が(5.0%)いて必要なとき、入用な額を購入している。(表1-8)

表1-8 1ヶ月のお小遣い

対象		項目				実数(%)
		1,000円以下	1,001～3,000円	3,001円以上	もらわない	計
小学生	男	83(72.2)	18(15.7)	1(0.9)	13(11.3)	115
	女	77(64.2)	23(19.2)	2(1.7)	18(15.0)	120
	全体	160(68.1)	41(17.4)	3(1.3)	31(13.2)	235
中学生	全体	253(28.9)	517(59.0)	62(7.1)	44(5.0)	876

小学生・中学生\*\*\*

2. 小学生の家庭科学習に対する興味・関心

1) 家庭科学習に対する興味・関心

小学生の家庭科学習が、「すき」か「きらい」かについて見ると、「すき」という者が男子(47.8%)、女子は(71.7%)で女子の方が多くなっている。「どちらでもよい」について見ると、男子(49.6%)、女子は(26.7%)で、「きらい」の男子(1.7%)、女子(0.8%)と併せると、男子(51.3%)、女子(27.5%)のものは関心度の低いことが見られる。家庭科が「すき」である(60.0%)のものを中学生の「すき」(25.8%)に比べると2倍以上になっている。「どちらでもよい」を中学生(51.4%)に比べると、小学生(37.9%)で小学生の方が家庭科学習を好むものが多い。(表2-1)

表2-1 家庭科学習に対する興味・関心

対象		項目				実数(%)
		大 す き	どちらでもよい	大 き ら い	無 回 答	計
小学生	男	55(47.8)	57(49.6)	2(1.7)	1(0.9)	115
	女	86(71.7)	32(26.7)	1(0.8)	1(0.8)	120
	全体	141(60.7)	89(37.9)	3(1.3)	2(0.9)	235
中学生	全体	161(25.8)	320(51.4)	96(15.4)	46(7.4)	623

男子・女子\*\*\* 小学生・中学生\*\*\*

2) 家庭科学習のすきな理由

「すき」な家庭科学習では、「調理がすき」(27.2%)で男子より女子の方が多くなっている。つぎの「家庭科全体がすき」は全体で(23.8%)で男子より女子の方が多くなっている。3位は「おいしいものが食べられる」で、全体平均(11.5%)であるが、女子の(2.5%)に対し男子は(20.9%)で、興味・関心の強さがみられる。(表2-2)

表 2-2 家庭科学習のすきな理由

項目		実数(%)									
対象	全体がすき	手縫い, ししゅう	ミシン縫いがすき	縫い物がきられる	調理がすき	おいしいものが食べられる	洗たく, 掃除がすき	先生がすき	無回答	計	
小学生	男	20(17.4)	1(0.9)	2(1.7)	0	21(18.3)	24(20.9)	0	0	47(40.9)	115
	女	36(30.0)	7(5.8)	3(2.5)	0	43(35.8)	3(2.5)	1(0.8)	2(1.7)	25(20.8)	120
	全体	56(23.8)	8(3.4)	5(2.1)	0	64(27.2)	27(11.5)	1(0.4)	2(0.9)	72(30.6)	235

男子・女子\*\*\*

3) 家庭科学習の「きれい」とする理由について見ると、「洗たく・掃除がきれい」という者が(5.1%), 「縫うのがきれい」(5.1%)等が主なもので, 全体的に数も少なく, 小学生の段階では, 「きれい」とする理由が明確でなく, そのことが, 「どちらでもよい」(37.9%)ということにつながっている。(表 2-3)

表 2-3 家庭科学習のきれいな理由

項目		実数(%)								
対象	全体がきれい	説明が面白くない	縫うのがきれい	調理をする	買物	任まい方	洗たく, 掃除	無回答	計	
小学生	男	0	3(2.6)	8(7.0)	1(0.9)	1(0.9)	3(2.6)	7(6.1)	92(80.0)	115
	女	2(1.7)	6(5.0)	4(3.3)	0	0	2(1.7)	5(4.2)	101(84.2)	120
	全体	2(0.9)	9(3.8)	12(5.1)	1(0.4)	1(0.4)	5(2.1)	12(5.1)	193(82.1)	235

## 3. 小学生の家庭での手伝いの状況

小学生の学校から帰宅してからの手伝いの状況を見ると, 「よくする」は女子(36.7%)で男子の(27.0%)よりよく手伝わっている。「ときどきする」は男子(65.2%)で女子の(59.2%)より少し多くなっている。「しない」とする者は, 全体平均で(6.0%)いる。(表 3-1)

## 1) 小学生の家庭での手伝いの状況

- (1) 「掃除・整とん」が手伝いでは一番多く, 「よくする」(37.0%), 「ときどきする」(50.6%)を併せると(87.6%)のものが手伝わっている。「しない」は(12.3%)である。
- (2) 「食事のしたく, 片づけ」で「よくする」(36.2%), 「ときどきする」(50.6%)を併せると(86.8%)の者は食事のしたく・片づけをしている。「しない」という者は(13.2%)で, 全体的には食事に関する手伝いはよくしている。(表 3-2)
- (3) 「買物」が3位で, 「よくする」(31.9%), 「ときどきする」(81.3%)になっている。「しない」とする者は(18.7%)で前二者に比べれば少し多くなっている。買物は小学生に限らず中学生でも好む手伝いとしてみることができる。
- (4) 「洗たく・アイロンかけ」では, 「よくする」が(7.2%)で少なく, 「ときどきする」(48.1%)で併せると(55.3%)である。「しない」とするものは(44.3%)で小学生の手伝いとしては買物よりは好まれないものようである。
- (5) 「家族の相談相手」では「よくする」(11.1%), 「ときどきする」(32.3%)で併せても(43.4%)の者しか相談相手になっていないことがわかる。

表 3-1 家庭でのお手伝いの状況

項目		実数(%)			
対象		よくする	ときどきする	しない	計
小学生	男	31(27.0)	75(65.2)	9(7.8)	115
	女	44(36.7)	71(59.2)	5(4.2)	120
	全体	75(31.9)	146(62.1)	14(6.0)	235
中学生	全体	184(21.0)	606(69.2)	86(9.8)	876

小学生・中学生\*\*

表3-2 小学生の手伝いの状況

項目		実数(%)					
		手伝い	洗たく、アイロンかけ	食事のしたく、片づけ	掃除、整とん	買物	老人、幼児の世話
小学生	よくする	17(7.2)	85(36.2)	87(37.0)	75(31.9)	25(10.6)	26(11.1)
	ときどきする	113(48.1)	119(50.6)	119(50.6)	116(49.4)	43(18.3)	76(32.3)
	しない	104(44.3)	31(13.2)	29(12.3)	44(18.7)	154(65.5)	133(56.6)
	無回答	1(0.4)	0	0	0	13(5.5)	0
	計	235	235	235	235	235	235
中学生	よくする	175(28.1)	124(19.9)	67(10.7)	184(29.6)	410(65.8)	345(55.3)
	ときどきする	399(54.4)	357(57.3)	365(58.6)	305(48.9)	130(20.9)	187(30.0)
	しない	101(16.2)	136(21.8)	103(29.4)	126(20.2)	41(6.5)	78(12.5)
	無回答	8(1.3)	6(1.0)	8(1.3)	8(1.3)	42(6.8)	13(2.2)
	計	623	623	623	623	623	623

小学生\*\*\* 中学生\*\*\*

(6) 「老人・幼児の世話」では、「よくする」(10.6%)、「ときどきする」(18.3%)で併せて(28.9%)のものは老人・幼児の世話を何らかの形でしている。一般に老人や幼児がいる家庭は(20~30%)にすぎず、核家族化傾向がみられる。(表3-2)

2) 家族員の仕事に対する小学生の認識

家族の仕事を、家族員の中で誰がすればよいと思うかについて見ると、表3-3に示す通りである。

(1) 「子どものしつけ」では父母とする者が(63.0%)、家族全員がする者が(15.3%)、つぎに母

表3-3 家族員と仕事に対する生徒の認識

家族		仕事	実数(%)			
			子どものしつけ	近所とのつき合い	親族とのつき合い	生活するお金を家庭に入れる
小学生	父	9(3.8)	0	8(3.4)	122(51.9)	7(3.0)
	母	30(12.8)	61(26.0)	6(2.6)	16(6.8)	130(55.3)
	父・母	148(63.0)	26(11.1)	46(19.6)	83(35.3)	35(14.9)
	祖父母	5(2.1)	3(1.3)	5(2.1)	1(0.4)	1(0.4)
	家族全員	36(15.3)	131(55.7)	156(66.4)	3(1.3)	20(8.5)
	その他	1(0.4)	0	1(0.4)	2(0.9)	13(5.5)
	わからない	6(2.6)	14(6.0)	13(5.5)	8(3.4)	29(12.3)
	無回答	0	0	0	0	0
	計	235	235	235	235	235
中学生	父	19(3.1)	5(0.8)	10(1.6)	280(44.9)	9(1.5)
	母	124(19.9)	115(18.5)	10(1.6)	22(3.5)	376(60.3)
	父・母	363(58.3)	65(10.4)	83(13.4)	224(35.9)	82(13.2)
	祖父母	2(0.3)	15(2.4)	20(3.2)	9(1.5)	3(0.4)
	家族全員	49(7.8)	348(54.7)	424(68.1)	16(2.6)	20(3.3)
	その他	3(0.4)	3(0.4)	4(0.5)	1(0.1)	22(3.5)
	わからない	9(1.5)	18(1.5)	16(2.6)	11(1.8)	42(6.8)
	無回答	54(8.7)	54(8.7)	56(9.0)	60(9.7)	69(11.0)
	計	623	623	623	623	623

小学生\*\*\* 中学生\*\*\*

が (12.8%) になっている。

(2) 「近所とのつき合い」では家族全員が (55.7%), 母親が (26.0%) になっている。

(3) 「親類とのつき合い」では家族全員が (66.4%), つぎに父母が (19.6%) になっている。これらの仕事に対する認識は、しつけなどは父母の責任とし、対外的なつき合いは家族全員としており、この傾向は中学生の場合と同じである。

(4) 「生活するお金を家庭に入れる」では父親が (51.9%), つぎに父母 (35.3%) になっており、生活するためのお金を家庭に入れることに対しては、父親を主としながらも、母親の外勤、自営、内職などによる収入獲得を父親と同様に認めている。

(5) 「学校の集りなどの出席」では母親が (55.3%), つぎに父母で (14.9%) であるが、保護者の参観日や、学芸会などなどは、母親が出席することが当然としている者が多い。(表3-3)

### 3) 家庭で手伝いをする理由

「家族にいいつつけられるから」が一番多く、全体平均 (37.0%) であるが、女子より男子の方が多い。つぎに「家族がよろこぶから」は全体平均 (25.1%) でこれは男子より女子の方が多い。つぎは「自分のためになるから」が全体平均 (24.7%) で男女の差は余りない。次に「自分のことは自分でする」が全体平均 (11.5%) になっている。手伝いは家族にいいつつけられるから、手伝えば家族がよろこんでもらえるから、手伝うことによって自分のためになるからと小学生も考えているようである。(表3-4)

表3-4 家庭で手伝いをする理由

対象		項目						実数(%)	
			家族にいいつつけられるから	自分のことは自分でしたいから	家族がよろこぶから	自分のためになるから	男だから女だから	無回答	計
小学生	男子	50(43.5)	14(12.2)	22(19.1)	27(23.5)	1(0.9)	1(0.9)	115	
	女子	37(30.8)	13(10.8)	37(30.8)	31(25.8)	2(1.7)	0	120	
	全体	87(37.0)	27(11.5)	59(25.1)	58(24.7)	3(1.3)	1(0.4)	235	

### 4) 家庭で手伝いをしない理由

「したくないから」が全体平均 (43.2%) で男子の方が女子より20%も多くなっている。つぎは「時間がないから」が全体平均 (31.6%) で女子の方が20%も男子より多くなっている。つぎは「したいが家族がしてしまう」が全体平均 (12.0%) でしようと思っても家族ができてしまっ、自分は何もしないでも生活できていることになっている。「したくないから」に比べれば少ないが、したくても出来ないものもいることがわかる。(表3-5)

表3-5 家庭で手伝いをしない理由

対象		項目				実数(%)	
			時間がないから	したいが家族がしてしまう	したくないから	男だから女だから	無回答
小学生	男	25(21.7)	14(12.2)	61(53.0)	4(3.5)	11(9.6)	115
	女	49(41.2)	14(11.8)	40(33.6)	1(0.8)	15(12.6)	119
	全体	74(31.6)	28(12.0)	101(43.2)	5(2.1)	26(11.1)	234

#### 4. 家庭科学習における学習効果

##### 1) 被服実習における生徒の要求

小学校の家庭科学習では、生徒がどのような授業を望んでいるかについてみると、「実際にして見せてくださる」が男子(45.2%)、女子(40.0%)で男子の方が希望が多くなっている。つぎに「声をかけてくださる」が男子(30.4%)、女子(35.0%)で女子の方がいくらか多い。つぎは「間違いを見つけてくださる」になっている。これは中学生の場合も同じ傾向である。(表4-1)

表4-1 被服実習中における生徒の要求

対象		項目	実数(%)								
			声をかけてくださる	プリント、標本を用意してくださる	間違いを見つけてくださる	放課後教えてくださる	実際にして見せてくださる	板書がわかりやすい	テストをよくする	視聴覚機器をよく使う	無回答
小学生	男	35(30.4)	4(3.5)	19(16.5)	0	52(45.2)	2(1.7)	0	3(2.6)	0	115
	女	42(35.0)	7(5.8)	17(14.2)	1(0.8)	48(40.0)	3(2.5)	0	1(0.8)	1(0.8)	120
	全体	77(32.8)	11(4.7)	36(15.3)	1(0.4)	100(42.6)	5(2.1)	0	4(1.7)	1(0.4)	235
中学生	全体	150(24.0)	81(13.0)	18(2.9)	25(4.1)	244(39.2)	29(4.7)	5(4.1)	1(0.0)	51(8.2)	623

小学生・中学生\*\*\*

##### 2) 被服実習における実技の習得状況

小学校の家庭科の被服教材内容<sup>1)2)3)8)9)</sup>としてあげられる主なものについて、その実技習得状況を見ると表4-2に示す通りである。「ひとりでできる」では、「なみ縫い」が全体平均(93.6%)で男子(89.6%)より女子(97.5%)の方が多い。「ミシン縫い」(72.2%)は全体平均(81.7%)で男子(72.2%)より女子(40.8%)の方がよくできることになっている。つぎに「スナップ・ボタンつけ」では全体平均(76.6%)で、男女でみると、女子の方がよくできることになっている。つぎに「ししゅう・小物づくり」は全体平均で(67.7%)、「エプロン」全体平均(62.0%)の習得でいずれも25~30%男子より女子の方がよくできるが、男子でもひとりでできるとする者が50%をこえている。「ひとりでできるようになりたい」では「ミシン縫い」で男子(22.6%)女子(9.2%)で男子の方が多く、つぎに「スナップ・ボタン付け」では男子(25.2%)、女子(9.2%)で男子の希望が多い。「エプロンでも男子(28.1%)女子(20.8%)でいずれも「ひ

表4-2 被服実習における技能の習得状況

対象		項目	実数(%)				計
			ひとりでできる	できるようになりたい	できなくてよい	無回答	
なみ縫い	小学生	男	103(89.6)	6(5.2)	6(5.2)	0	115
		女	117(97.5)	3(2.5)	0(0.0)	0	120
		全体	220(93.6)	9(3.8)	6(2.6)	0	235
	中学生	全体	486(78.2)	16(2.6)	23(3.6)	97(15.6)	623
ミシン縫い	小学生	男	83(72.2)	26(22.6)	6(5.2)	0	115
		女	109(90.8)	11(9.2)	0	0	120
		全体	192(81.7)	37(15.7)	6(2.6)	0	235
	中学生	全体	473(75.9)	34(5.5)	29(4.6)	87(14.0)	623
スナップ、ボタンつけ	小学生	男	73(63.5)	29(25.2)	10(8.7)	3(2.6)	115
		女	107(89.2)	11(9.2)	1(0.8)	1(0.8)	120
		全体	180(76.6)	40(17.0)	11(4.7)	4(1.7)	235
	中学生	全体	448(71.9)	52(8.3)	27(4.4)	96(15.4)	623
ししゅう、小物づくり	小学生	男	59(51.3)	35(30.4)	19(16.5)	2(1.7)	115
		女	100(83.3)	16(13.3)	4(3.3)	0	120
		全体	159(67.7)	51(21.7)	23(9.8)	2(0.9)	235
	中学生	全体	180(28.9)	196(31.5)	148(23.7)	99(15.9)	623
エプロン	小学生	男	56(49.1)	32(28.1)	25(21.9)	1	115
		女	89(74.2)	25(20.8)	6(5.0)	0	120
		全体	145(62.0)	57(24.4)	31(13.2)	1	234
	中学生	全体	302(48.4)	106(17.1)	196(17.1)	109(17.4)	623

なみ縫い 男子・女子\* 小・中学生\*\*\*  
 ミシン縫い 男子・女子\*\*\* 小・中学生\*\*\*  
 スナップ、ボタンつけ 男子・女子\*\*\* 小・中学生\*\*\*  
 ししゅう、小物づくり 男子・女子\*\*\* 小・中学生\*\*\*  
 エプロン 男子・女子\*\*\* 小・中学生\*\*\*

とりでできるようになりたい」という者が男子に多いことがわかる。中学生と比べてると、小学生の方が全体的によくできることになっているのは小学校の段階では、家庭科の学習に対して新鮮味をもち、興味・関心が多分にあるとみてよいであろう。(表4-2)

3) 調理実習における生徒の要求

小学校の調理実習では、どのような授業を生徒が望んでいるかについて見ると、表4-3の通りである。これによると「たのしい面白い授業」が男子(66.1%)、女子(60.8%)でたのしく面白い授業は男子の方が好むようである。つぎは「家でつくりえないおいしい料理がつかれる」が男子(15.7%)、女子(21.7%)男子、女子ともおいしい料理が食べられることに楽しみがあるようである。

中学生の要求も「たのしい面白い授業がよい」としているものが(52.7%)であった。(表4-3)

表4-3 調理実習中における生徒の要求

項目		実数(%)									
対象	性別	たのしい面白い授業	プリント、標本を用意して下さる	家でつくりえないおいしい料理がつかれる	放課後教えて下さる	実際に見せて下さる	1つ1つの操作がよくわかる	テストをよくする	視聴覚機器をよく使う	無回答	計
小学生	男	76(66.1)	2(1.7)	18(15.7)	0	9(7.8)	7(6.1)	1(0.9)	2(1.7)	0	115
	女	73(60.8)	2(1.7)	26(21.7)	1(0.8)	10(8.3)	7(5.8)	0	0	1(0.8)	120
	全体	149(63.4)	4(1.7)	44(18.7)	1(0.4)	19(8.1)	14(6.0)	1(0.4)	2(0.9)	1(0.4)	235
中学生	全体	328(52.7)	15(2.4)	9(1.4)	13(2.1)	47(7.6)	15(2.4)	0	18(2.9)	73(11.6)	623

4) 調理実習における実技の習得状況

小学校家庭科の食物教材内容<sup>1)2)3)8)9)</sup>としてあげられるものについてみると表4-4に示す通りである。「ひとりでできる」ものの中、「たまご焼き」が全体平均(92.8%)で一番よくできる調理である。つぎに「みそ汁」は、男子(51.3%)、女子(75.8%)で男子より、女子の方がよくできる。つぎは全体平均をみると、カレーライス(55.7%)、ポテトサラダ(54.9%)、スパゲッティ(46.0%)となっている。スパゲッティについては、男子(30.4%)、女子(60.8%)、男子は女子の $\frac{1}{2}$ しか調理できないようである。

「できるようになりたい」ではすべて男子の方が多く、スパゲッティ(60%)、ポテトサラダ(49.6%)、カレーライス(50.4%)、みそ汁(40.9%)と希望が多い。これらの家庭は核家族が多く、また単身赴任の男性も多数ある

表4-4 調理実習における実技の習得

項目		実数(%)					
対象	性別	ひとりでできる	できるようになりたい	できなくてよい	無回答	計	
たまご焼き	小学生	男	103(89.6)	10(8.7)	2(1.7)	0	115
		女	115(95.8)	4(3.3)	1(0.8)	0	120
		全体	218(92.8)	14(6.0)	3(1.3)	0	235
中学生	全体	503(86.5)	27(4.4)	13(2.0)	80(12.8)	623	
ポテトサラダ	小学生	男	45(39.1)	57(49.6)	13(11.3)	0	115
		女	84(70.0)	34(28.3)	2(1.7)	0	120
		全体	129(54.9)	91(38.7)	15(6.4)	0	235
中学生	全体	357(57.3)	115(18.4)	44(7.1)	107(17.2)	623	
みそ汁	小学生	男	59(51.3)	47(41.9)	9(7.8)	0	115
		女	91(75.8)	28(23.3)	1(0.3)	0	120
		全体	150(63.8)	75(31.9)	10(4.3)	0	235
中学生	全体	385(61.7)	101(16.2)	35(5.6)	102(16.3)	623	
カレーライス	小学生	男	52(45.2)	58(50.4)	5(4.3)	0	115
		女	79(65.8)	38(31.7)	3(2.5)	0	120
		全体	131(55.7)	96(40.9)	8(3.4)	0	235
中学生	全体	420(68.9)	87(13.9)	19(3.0)	88(14.2)	623	
スパゲッティ	小学生	男	35(30.4)	69(60.0)	11(9.6)	0	115
		女	73(60.8)	45(37.5)	2(1.7)	0	120
		全体	108(46.0)	114(48.5)	13(5.5)	0	235

たまご焼き 小・中学生\*\*\*  
 ポテトサラダ 男子・女子、小・中学生\*\*\*  
 みそ汁 男子・女子、小・中学生\*\*\*  
 カレーライス 男子・女子\*\*\*、小・中学生\*\*\*  
 スパゲッティ 男子・女子\*\*\*

ので調理が最低限度できるようになっておかないと困ることがあると思える。中学生の調理に対する希望も同じような傾向にあるので一人で調理ができるよう指導することが望まれる。(表4-4)

### 5. 小学生の望む教師像

小学生の家庭科学習においてどのような教師を望んでいるかについて示すと表5の通りである。「生徒を理解する教師」とする者が男子(55.7%), 女子(59.2%), 「一生懸命教える教師」が男子(16.5%), 女子(17.5%)となっている。つぎに「家庭科の知識が豊富である」が、全体平均(8.5%), 「新しい考え方ができる」全体平均(6.0%)と続いている。中学生も「生徒を理解する教師」が一番多く(58.9%)で同じ傾向である。これらのことから教授に当っては、学習者の学習に対する意欲や要求をでき得る範囲でよく知ることはその効果を高めることにつながる。従って生徒が自らのテンポで成長、発達していくことを充分<sup>4)</sup>に認識しながら、各自の欲求に対処できる方法について考えなければならないであろう。(表5)

表5 生徒の望む家庭科の教師像

対象		項目	実数(%)								
		生徒を理解する	家庭科の知識が豊富	指導力がある	一生懸命教える	新しい考え方ができる	研究心がある	明朗で健康	人間的み力ある	無回答	計
小学生	男子	64(55.7)	10(8.7)	7(6.1)	19(16.5)	6(5.2)	1(0.9)	3(2.6)	5(4.3)	0	115
	女子	71(59.2)	10(8.3)	4(3.3)	21(17.5)	8(6.7)	0	4(3.3)	2(1.7)	0	120
	全体	135(57.4)	20(8.5)	11(4.7)	40(17.0)	14(6.0)	1(0.4)	7(3.0)	7(3.0)	0	235
中学生	全体	367(58.9)		74(11.9)		0(0.0)	43(7.0)	42(6.7)	29(4.6)	53(8.5)	623

小学生・中学生\*\*\*

### 6. 小学生の家庭科学習に対する評価

小学生の家庭科学習に対する評価では、「今まで通りでよい」は男子(64.3%), 女子(81.7%)で男女共学の家庭科学習でよいという者が多くなっている。「何とも思わない」は男子(14.8%), 女子(7.5%)で殆んどのものが、現在の学習形態でよいとしている。「男女分けて学習するとよい」は全体平均(2.6%)で殆んどのものが、現在の学習形態でよいとしている。

中学生の場合、小学校での家庭科学習に共学経験をもっており、共学を望む者が多いが、現在の学習内容では共学できない面もあり、共学を進める点からは教材内容について検討する必要があるようである。(表6)

表6 現在の家庭科学習に対する評価

対象		項目	実数(%)					無回答	計
		今まで通りでよい	何とも思わない	わからない	男女わけて学習するとよい	男子は受けなくてよい			
小学生	男子	74(64.3)	17(14.8)	12(10.4)	2(1.7)	10(8.7)	0	115	
	女子	98(81.7)	9(7.5)	6(5.0)	4(3.3)	3(2.5)	0	120	
	全体	172(73.2)	26(11.1)	18(7.7)	6(2.6)	13(5.5)	0	235	
中学生	全体	107(17.1)	188(30.2)	47(7.5)	153(24.6)	80(12.8)	48(7.8)	623	

男子・女子\* 小学生・中学生\*\*\*

### 7. 男女共学における生徒の望む家庭科学習内容

小学校は男女共学であるので、小学生が望む学習内容についてみると、「調理実習」は男子(74.8%), 女子(63.3%)でいずれも多い。つぎには「家庭生活」で男子(7.8%), 女子(20.0%), 3位は「家

族関係」で男子(5.2%),女子(5.0%)になっている。被服関係の希望は男女を問わず、少くない傾向にある。従ってこれらの傾向から教師は、生徒がその発達状態に応じて効果的な学習をする条件について理解し、生活を営む上での衣・食・住に関わる最低必要とされる理論と実技の習得をふまえた<sup>5)</sup>学習内容について検討する必要があるであろう。(表7)

表7 男女共修時における生徒の望む家庭科学習内容

対象	項目	実数(%)																						
		調	理	子どもの世	家族関係	家庭生活	住	ま	い	被	服	し	し	ゆ	う	衣	生	活	の	あ	り	方	無	回
小学生	男子	86(74.8)		2(1.7)	6(5.2)	9(7.8)	6(5.2)	2(1.7)	2(1.7)	2(1.7)	2(1.7)	0	115											
	女子	76(63.3)		1(0.8)	6(5.0)	24(20.0)	5(4.2)	1(0.8)	4(3.3)	2(1.7)	1(0.8)	120												
	全体	162(68.9)		3(1.3)	12(5.1)	33(14.0)	11(4.7)	3(1.3)	6(2.6)	4(1.7)	1(0.4)	235												
中学生	全体	242(40.0)		57(9.2)	80(12.8)	81(13.0)	74(12.0)	11(1.7)			9(1.4)	58(9.3)	623											

注) \* 5%有意水準で有意差あり

\*\* 1%有意水準で有意差あり

\*\*\* 0.1%有意水準で有意差あり

小学生・中学生\*\*\*

## ま と め

以上目的に示したように、小学校は「心身の発達に応じて、初等普通教育を施すことを目的とする」<sup>7)</sup>ことに重点がおかれ、現場の家庭科教師は、小学生の生徒の実態について、ある程度理解を持って授業に臨まれていると思うが、学習成果を、各自の生活に還元させる上から、生活実態や、家庭科学習に対する興味・関心、家庭生活のあり方、家庭生活の営みの仕事、などに対しての認識、生活行動、生活資材などに関わる知識ならびに実技の程度を知ることが、必要であるとともに今後の家庭科の指導効果を高める一端になることと思う。学習者が学習意欲をわかせる教師として最も多くあげられているのは、「わかりやすく教えてくれる教師」<sup>8)</sup>であったり、「おもしろい教師」「たのしい教師」のように、「分かる授業」だけが望まれていないことが、この調査でも明らかである。この点から、家庭科学習を通して、教師と生徒の人的な触れ合いと同時に、教師の多角的思考の広がりが必要が強調されてくる。

小学校における男女共学の問題点や、カリキュラムについては次の機会に報告する。

稿を終るにあたり、アンケートに御協力いただきました、倉敷市内2校の小学校の諸先生と、生徒に深く感謝いたします。

最後に、この調査、研究を行うにあたり御指導をいただいた岡山大学教育学部 深田貞子教授に深く感謝いたします。

## 参 考 文 献

- 1) 全国職業教育協会 「技術・家庭 女子向I」昭和53年
- 2) 全国職業教育協会 「技術・家庭 女子向II」昭和53年
- 3) 全国職業教育協会 「技術・家庭 女子向III」昭和53年
- 4) O.A. ホール, B. パオラッチ 「家庭科教授法」宮原佑弘訳 原田一監修 p. 103
- 5) O.A. ホール, B. パオラッチ 「家庭科教授法」宮原佑弘訳 原田一監修 p. 195
- 6) 岡山県教育センター 「教授における生徒との人間関係促進に関する研究」山陽新聞 昭和60年9月記掲
- 7) 相島裕子, 桑原敏子, 中間美砂子, 深田貞子 初等家庭科教育の研究
- 8) 林 雅子ほか15名 「新しい家庭 5」東京書籍株式会社 昭和60年2月
- 9) 林 雅子ほか15名 「新しい家庭 6」東京書籍株式会社 昭和60年2月
- 10) 大橋登史子 中国短大紀要17号 中学校家庭科における教育実習効果に関する一考察
- 11) 原田 一 家庭科教育法要説 高陵社書店 昭和60年4月1日
- 12) 深田貞子, 大橋登史子, 近藤信子, 福知栄子 文部省科学研究費による報告 岡山県における生活管理を基盤にした家族福祉施策に関する調査研究 昭和63年3月